

令和5年度第1回津島市総合教育会議 議事録

1. 日時

令和5年8月8日（火） 午後2時30分から午後3時30分まで

2. 場所

津島市役所 3階市長公室

3. 出席者

構成員：日比市長、浅井教育長、小出委員、猪飼委員、奥村委員、畑中委員

事務局：市長公室長、教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長兼官民連携スポーツ担当課長、企画政策課長、学校教育課長、指導主事、社会教育課長、担当職員1人

傍聴者：0人

4. 議事

①領事館プロジェクト（国際理解教育事業）について

②歴史・文化学習事業「祭りを学ぶ」について

5. 会議内容

1) あいさつ

（日比市長）

- ・現在、小中学校では、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類になってから初めての長期の休み期間となっている。
- ・今年度は、先日開催された尾張津島天王祭をはじめ、これまで自粛や縮小してきた行事なども通常開催できるようになってきており、学校も含めてコロナ前に戻りつつあると感じている。
- ・今年2月に開催した前回の会議では、「令和5年度予算における主な事業について」、「体力向上に関する取組等について」の2件を議題として、貴重なご意見をいただいた。
- ・今回は、「領事館プロジェクト（国際理解教育事業）について」と「歴史・文化学習事業「祭りを学ぶ」について」の2件を議題としている。いずれも本市が現在進めている教育施策に関連する内容となっている。
- ・前回同様に、有意義な意見交換をしていきたい。

(浅井教育長)

- ・令和2年2月に新型コロナウイルスにより小中学校が休業してから3年以上が経過し、やっと収束してきた。それでも7月には小中学校でコロナの陽性者が多く発生し、学級閉鎖寸前の状況で夏休みを迎えた。夏休みに助けられたような感じがする。
- ・令和5年度予算は、教育に対して手厚い予算にさせていただいた。市長が掲げる「楽しくて役に立つ」、「誰一人取り残さない」、「キラリと光る」津島の教育を推進していきたい。
- ・今日の午前中に、津島プログラミングプロジェクト(TPP)のプレ大会として、4中学校対抗のプログラミングロボットを使った大会を東小学校で開催し、無事に終えることができた。来年の本大会に向けて一歩踏み出すことができた。
- ・本日の会議では、このところずっと積み上げてきた領事館プロジェクトについて議題としている。帝国書院の発行する教育情報誌「階」を配布させていただいたが、津島市の実施している国際理解教育について紹介したいとの話があり、領事館プロジェクトについて掲載されている。
- ・もう1つの議題である、歴史・文化学習事業「祭りを学ぶ」も何年も続けて実施しており、伝承行事を学ぶ大切な機会となっている。
- ・2つの議題について忌憚のない意見をお願いしたい。

2) 議題1 領事館プロジェクト(国際理解教育事業)について

(日比市長)

- ・在名古屋の8つの領事館と実施している国際理解教育事業である「領事館プロジェクト」について事務局から説明する。

(学校教育課長)

- ・津島市では、グローバル化や情報化など、多様化が一層進む社会にあって、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力や多様な個性を伸ばし、国際人として成長し、国際社会のなかで貢献できるよう教育の国際化を推進している。
- ・市内小学校に在学する児童を対象に、外国の文化に触れる機会を創出することで、グローバル化する社会の中で他の文化圏の人や暮らしに親しみをもち、国際理解を深めることを目的として、県内にある8領事館と連携して講演会や教室などの領事館プロジェクト(国際理解教育事業)を実施している。
- ・本事業は平成28年度から取組が始まっており、平成28年7月23日に「津島・韓国・中国 子どもサミット in 津島」が開催された。これは津島市制70

周年事業として、中国、韓国の子どもたちを招き、津島市の子どもたちと天王祭を通じて交流事業を実施したものである。

- ・平成 29 年度は県内のアメリカ・ペルー・韓国の県内 3 領事館との交流を展開した。その一方で、7 月 26 日には津島と中国の長安第 1 小学校の皆さんにお越しいただくとともに、11 月 4～7 日には韓国の東山初等学校の子どもたちを招き、津島の子どもたちとの交流を実施することで、国際感覚を醸成する取組を実施した。
- ・平成 30 年度は韓国領事館と、令和元年度はペルー・韓国・カナダ領事館との交流が引き続き行われている。
- ・令和 2 年度は新型コロナ対応のため全中止となったものの、令和 3 年度には韓国・カナダ領事館との交流を再開した。
- ・令和 4 年度には県内にトルコ領事館とフィリピン領事館が開設され、これにより愛知県内にある領事館の数が津島の小学校の数と同じ 8 つとなった。これを機に、領事館プロジェクト（国際理解教育事業）を大きく広げ、全ての小学校が在名古屋の領事館それぞれとタッグをくみ、交流事業を展開するとした。第 1 弾は令和 4 年 9 月 15 日に高台寺小の全校児童を対象として中国領事館と剪纸体験を実施した。第 2 弾は 11 月 24 日に北小の全校児童を対象として韓国領事館とアイドルグループの dela の皆さんにお越しいただき、ダンスを交えながら韓国の文化を学んだ。第 3 弾は 11 月 30 日に神島田小とアメリカ領事館、第 4 弾は 12 月 5 日に西小とブラジル領事館、第 5 弾は令和 5 年 1 月 18 日に神守小とカナダ領事館で交流を行った。カナダ領事館とは子どもたちが習字を披露したり、抹茶を点てて領事にふるまったりと、日本の文化を紹介するとともに、領事からカナダの文化について説明していただき、子どもたちの記憶に残る交流となった。第 6 弾は 1 月 31 日に蛭間小とトルコ領事館、第 7 弾は 2 月 7 日に東小とペルー領事館、第 8 弾は 2 月 24 日に南小とフィリピン領事館と交流を行った。このように全 8 小学校で領事館との交流を実施した。
- ・令和 5 年度についても、昨年度と同様に全ての小学校での交流を予定しており、第 1 弾として 7 月 5 日に高台寺小で中国領事館と交流を行った。全児童に体育館に集ってもらい、文化交流事業として子どもたちの前で川劇「変面（へんめん）」を行っていただき、間近で顔が変わる様子を見せてもらった。また獅子舞や曲芸も子どもたちの目の前で披露していただき、子どもたちの記憶に残る楽しいひと時を過ごすことができた。第 2 弾から第 8 弾は 9 月以降に実施する予定で各学校が日程調整を行っているところであり、実施する前には周知していきたい。

- ・本事業を通して世界の国々の文化・風習の体験学習をする中で、他国の文化や生活に興味を持ち、自分の国の文化や生活と比べ、互いの違いや共通点について学ぶことができたと考えている。本年2月に発生したトルコ地震では、蛭間小の児童が自主的に募金活動を行うなど、子どもたちの行動にも変化が現れてきている。
- ・今後も現在展開している領事館プロジェクトを継続実施し、異文化に触れる体験を通じて、国際感覚を身に着けることに取り組み、グローバル化が進む中、未来へ飛躍する人材の育成に努めていきたいと考えている。

(奥村委員)

- ・私はこれまで参加したことがなく、今度ぜひ見てみたい。中国や韓国とは子どもたちの交流もあるが、遠方の国とは子ども同士が直接交流することは難しいので、時差の問題はあるがリモートでも交流できたら良いのではないかと。文化や国の背景を知ることが大事なことである。説明があったトルコ地震の際の募金活動もそうであるが、子どもたちが社会性を身に着けるのにとっても役に立っていると思うので続けていただきたい。

(日比市長)

- ・ペルーと中国とはオンラインで交流したいという話を聞いている。今年は日本とペルーの外交関係樹立150周年に当たるので、セッティングできればいい機会ではないかと考えている。交流のために海外に何人も連れて行くのは難しいので、1人1台タブレットを活用してオンラインでの交流ができないかと思っていたら、先方からそのような話があったので検討してもらっている。

(畑中委員)

- ・このプロジェクトは始まった頃から注目している。小学生の時期に他国の文化を知ることはいい経験になる。これをきっかけに外国に興味を持ち、自分で調べることにもつながると思う。市としても藤まつりに領事を招待して抹茶をふるまうなど、交流することは大切なことだと思う。今後もつながりを持って続けていくと良いと思う。

(日比市長)

- ・小さなころに経験することが大きいと思う。中国琵琶の名手であるティンティンさんは、小さい頃に日本に来たのがきっかけで、日本に住むことになったとのことであった。観光交流センターにも来てもらったことがある。そういったように、8つの領事館の国の中から興味のある国が見つかるなど、子どもたちのきっかけになればいい。

(猪飼委員)

- ・領事館プロジェクトはいい所に目を付けたと思う。他国の文化や生活に興味を持つことで互いの違いや共通点を学ぶことができる。そういった場面は日常にはあまりない。
- ・先日の天王祭の際に、市が各国の領事館の方を招待しており、案内する際に4つのグループに分けて20分ごとに案内していた。日本では驚くことではないかもしれないが、グループごとにきっちりと時間を決めて案内する様子を見て、領事館の方は驚いていたのではないか。海外ではそのようなことはまずないと思う。私は以前、仕事で海外から来られる方を空港に迎えに行く機会がよくあったが、どこの国も時間をきっちりと守るとか、16両編成の新幹線が時間通りに運行していることにびっくりされる。子どもたちも他国の文化に触れる機会があることは素晴らしいと思う。

(日比市長)

- ・高台寺小学校では獅子舞や変面を披露していただき、子どもたちに間近で見てもらった。私も見ていたがすごかった。子どもたちも感じるものがあったと思う。

(小出委員)

- ・小中学校では外国人児童生徒が増えてきている。このような事業を実施することによって、そういった子たちがなじみを持って学校に来ることができるのではないかと思う。壁が薄くなると思う。日本人児童生徒から見ても、外国人児童生徒から見ても、大人が手を握り合っているのを見れば、子どもたちも手を握り合おうと思う。実際に大人がやっているのはすごいことだと思う。それも8小学校全てで実施しているのは、なかなかできることではない。
- ・子どもたちが国籍や言葉の壁をなくして人と接することができることを期待している。英語は学習しているが、それ以外の言葉についても交流の機会に話しているのを聞くことで、英語圏以外の国の子も、自分の国の言葉を教えてあげたりすることにつながるのではないか。そういったことで緻密な取組であると思う。実際に体験することで子どもたちが学んでいくので、ぜひ続けていただきたい。また、大人同士が仲良くなることが子どもにとってもいいことになる。領事館の方が学校に来られて、学校の先生や市の職員と話をしながら進めていくという運営についてもいいと思う。

(浅井教育長)

- ・国際理解というのは切り口が重要となる。その中で、領事館と交流するということはすごいことだと思う。領事館という遠いようで身近にあるものを活用して外国と交流を行っている。市長の先見の明もあり、国際教育の切り口としては非常にいいと思う。帝国書院も切り口がいいと言っていたが、情

報誌に取り上げてくれた。

- ・また、この事業は国際理解教育であるとともに、人権教育の一環でもある。自分と価値観が違う方たちを知ることで、多様な見方や考え方ができる元となっていく。子どもたちがどこか自分と違う点を見つけることができると思う。似ているところもあるが、どこか違うということも感じることができる。書道にしても日本では「書道」だが、「書法」であったり「書芸」であったり、やり方なども違っている。文化が違うということが分かる。見方や考え方は人権教育の元であるが、この領事館プロジェクトはそういったことも学ぶことができる。
- ・小出委員も言われたが、フィリピン領事館と南小の交流の際に、フィリピンの児童が多いので、領事から激励の言葉をいただいた。子どもたちも喜んでおり、家に帰ってそのことを報告していたようである。外国人であることから日本で肩身が狭い思いをすることもあると思うが、こういった取組が自分の国の誇りにもなるのではないか。こういった事業はほとんどのところで取り組まれていないのではないか。
- ・この後どう発展させるかが難しい。作品やビデオレターも以前に流行ったが、今は相手の国が望んでいない。オンラインでの交流の話が出たが。そういった提案を受けている。フィリピンからは、タガログ語の講座をやりたいという話もある。そんなことも検討していきたい。

(日比市長)

- ・今後のステップアップを期待している。コロナの前から藤まつり、天王祭、秋まつりに領事館の方を招待している。今までも秋まつりは、お寺で昼食を食べた後で津島駅まで歩いていただき、まつりを観覧していただいているので、継続できるといいと思っている。
- ・先日も中日新聞の「なごやか外交」に掲載されたトルコの総領事が8月に離任されることに伴うメッセージの中で、600年近く続く天王祭を見ることができてラッキーだったと載っていて、非常に嬉しかった。藤まつりについても、カナダの領事とペルーの総領事に紹介していただいた。このように公的な領事館から発信していただくことにもつながっており、これを発展させていきたい。

3) 議題2 歴史・文化学習事業「祭りを学ぶ」について

(日比市長)

- ・子どもたちが郷土の歴史や文化について学習する機会を設け、郷土への誇りや愛着を育む事業である。事務局から説明する。

(社会教育課長)

- ・この事業は、津島市教育大綱の目標7「郷土の歴史・文化資源の保護・継承・活用を通じて郷土愛を育む」を達成するための事業に位置づけられる事業で、郷土の歴史・文化の学びを通じて、その価値や意義を正しく理解しながら郷土への誇りや愛着を育み、地域の宝として後世につなげていくことを目的としている。
- ・山・鉾・屋台行事がユネスコ無形文化遺産代表一覧表に記載されたことを契機に、尾張津島天王祭の車楽舟行事を学習テーマとしている。
- ・尾張津島天王祭は津島市と愛西市が関わる祭りであるため、津島市・愛西市の教育委員会が共催で事業を行っており、対象者は小学4年生から6年生としている。
- ・資料には、令和3年度から5年度までの3年間の実施状況を掲載している。定員30人のところ、50人を超える申込がある年もあり、抽選で参加者を決定している。
- ・学習内容については、様々な角度から尾張津島天王祭を学習してもらうことができるよう、また毎年参加しても楽しく学習してもらえるように、クイズ、ビデオ鑑賞、フィールドワークや体験など工夫している。令和3年度は、朝祭の車楽舟に飾り付けられる「花」を作る体験や大英博物館に所蔵されている天王祭礼屏風の複製品の鑑賞、稚児行列を見学した。令和4年度は市江車の鉾持ちが持つ「布鉾」を持ってみる体験、車楽舟を組み立てるパズル、朝祭の車楽舟を陸上から観覧した。令和5年度は、津島神社や興禅寺（牛頭天王倚像）をめぐるフィールドワーク、観覧船に乗って朝祭を見学、葎を刈る体験、注連縄作りを体験してもらった。
- ・本事業は、尾張津島天王祭を知らない、特に朝祭は見たことが無いという地元子どもたちに、尾張津島天王祭を学習する機会を提供し、郷土への誇りや愛着を育むことに寄与していると感じている。
- ・「祭りを学ぶ」に参加した子どもたちに、津島を代表する祭りを正しく理解してもらうことで、郷土愛を持ち、地域の宝を継承していくことの良き理解者、応援者になってもらえたらと考えている。

(小出委員)

- ・私は色々な人の話を聞くが、中でも郷土史家の黒田剛司先生の話聞くのが好きである。落ち着いた語り口調で、話される内容が自分の中に入ってくる気がする。このような事業は、学習者である子どもたちに内容を理解してもらい、愛着を持ってもらうことが必要だが、教える側は非常に難しい。黒田先生のような人と連携して実施すると、津島の祭りの奥深くのところを聞い

てもらえるのではないかと思います。

- ・今年の天王祭の際に私が祭りを見ていると、近くにいた女性の方から、提灯の数や稚児が船のどこに乗っているのかなどを質問された。瀬戸市から来られたとのことで、天王祭のことを噂に聞いて大まかなことを知っていたようである。私がもう少し詳しく知っていればよかったが、あまり詳しく説明できなかった。歴史や文化をきちんと説明できる人が養成されていくとよいと思った。子どもが説明できるようになり、その親も説明できるようになれば、津島に来られた方に対して、歴史や文化などを丁寧に説明できるようになり、それは大きなサービスになる。私は詳しく話ができなかったので残念であった。私も勉強させていただく。

(日比市長)

- ・宵祭のことは知っているが朝祭のことはあまり知らないという人が多い。数年前からおもてなしコンシェルジュを養成しており、ガイドボランティアと合わせて祭りなどで活躍していただきたいと思っている。

(猪飼委員)

- ・私は2年前に津島神社の責任役員となったが、色々な歴史をあまりよく知らなかった。そのため、1年目はなるべく神事に参加するようにしたが、一つ一つが意味深いことが分かった。天王祭は600年近く続いており、重みが違う。津島神社は2040年には鎮座から1500年を迎えるが、1500年間ずっと続いているということはすごいことである。この事業は、郷土愛が身につくいい方法である。子どもたちはぜひ歴史や文化を学んでいただき、後世に繋げていただきたい。

(畑中委員)

- ・私の息子は過去に天王祭の稚児を務めたことがあり、そこからは毎年囃子方として船に乗っている。また、息子が小学生の時には、この事業に学ぶ側で参加し、今はお囃子を披露する側で参加しており、天王祭にはいろいろな形で関わっている。息子が稚児を務めた際に、私も改めて歴史を勉強し直した。天王祭は神事として大事な行事で、稚児打廻と宵祭、朝祭の3日間だけでなく、その前から様々な大事な行事がある。息子たちはいい経験をさせてもらっており、その時から必ず参加している。祭りに愛着を持っており、受験生であっても参加したが、二週間ほど前からやる稽古から参加している。指導していただく方の指導もいいので参加したがっている。
- ・天王祭だけでなく秋まつりもそうだが、子どものころに学ぶことで身近に感じ、愛着が湧き、少しでも祭りに関わるきっかけになれば、継承していけるのではないかと思います。

(日比市長)

- ・ある人が、祭りはコミュニティの最後の砦だと言っていた。コミュニティや人と人の繋がりには難しい部分があるが、祭りを通じて小さい頃から経験することで、仲間意識を持ってもらえればと思う。そして一旦市外に出たとしても、戻ってきてくれる可能性があるのではないかと思う。

(奥村委員)

- ・教育委員になってから朝祭に参加したが、宵祭よりも朝祭の方がずっと長く、色々な行事がある。あんなに近くで行われているのによく知らなかったの、小学生の時に教えてもらってなかったのだと思った。参加する子どもを含めて、学校でも行事を学ぶ機会があり、もっと身近に感じられるといいと感じた。

(日比市長)

- ・その通りだと思う。小さい頃に祭りと接点があるといい。この事業は船に乗る関係で定員があるが、船に乗るだけでなく、何らかの形でもっと多くの人に参加してもらえるとよい

(浅井教育長)

- ・この事業でいいと思うのは、津島市と愛西市が連携して実施している点である。天王祭自体が津島市だけでなく愛西市との祭りである。2市の連携がうまくいっていると思う。
- ・この事業がスタートした頃は、学校に頼んで参加してもらっていたが、この2年間、津島市は申込者が非常に多い。社会教育課の非常に大切な事業になってきている。津島の歴史・文化から考えれば、この事業に目が向くのは当たり前なことだと思う。
- ・今年度は、学芸員の発案で神葎刈体験や注連縄作り体験を実施したが、こういった企画は学芸員でないと思いつかない。質としてもいい事業だと思う。この事業の参加者の中から、祭りを研究したり、祭りに参加したりする子が出てくると思う。継続は力なりということで、続けていきたい。

(日比市長)

- ・もう少し多くの人に参加してもらいたい、移動手段等の問題があって難しい。神守や神島田地区の人にも、もっと朝祭を見学してもらいたいと思っている。バスをチャーターしてもいいのではないか。

(社会教育課長)

- ・移動手段として、愛西市のバスを使用している。人数制限をしているのはバスの問題もあるが、朝祭の観覧船の定員もある。本当は応募者全員に参加してもらいたい、そういった理由で人数制限をしている。子どもたちに何が

楽しかったかを聞くと、普段はなかなか乗る機会がない観覧船に乗ることができたことと答える子が多い。

(日比市長)

- ・祭りのことを知らない子が多いので、船に乗らなくても祭りを見るだけでも違うと思う。もっとたくさんの人に見てもらおうといいと思う。

4) その他

(日比市長)

- ・徹底した行財政改革を行ったことで、市の財務体質は大きく改善した。そういったことにより、小中学校の体育館へのスポットエアコンの設置や、プログラミングロボットを使った最先端の教育も行うことができる。こういったことは、財政基盤がなければ持続可能ではない。
- ・全てをまんべんなく実施していくことはできないので、メリハリをつけてやっていくことが必要である。10年先、20年先を見据えて戦略的にまちづくりを進めていく。

(企画政策課長)

- ・総合教育会議は、例年、年2回程度開催しており、次回の会議は、来年2月頃を予定している。日程が決定次第、教育委員会を通じて連絡する。